

動物福祉を学ぶ環境エンリッチメント体験ワークショップを開催します！
～動物たちに氷のプレゼント。より豊かで幸せな日々を～

千葉市動物公園では、飼育動物たちにより豊かで幸せな日々を届けるため、動物福祉につながる、様々な環境エンリッチメントの取り組みを実施しています。

このたび、猛暑の続くこの夏に、動物福祉の一環として、動物たちに涼を取る環境を提供するため、参加者がおいしい果実などが入った氷を製作し、動物たちにプレゼントする体験ワークショップを開催しますので、お知らせします。

果実入り氷などの製作過程において、環境エンリッチメントの取り組みや動物福祉についてのレクチャーを行い、参加者の皆さまに理解を深めていただきます。

1 イベント名称

環境エンリッチメント・ワークショップ～おいしい氷を動物たちにプレゼント！～

2 イベント内容

Amazon ほしいもののリストを通して市民からご寄付いただいた道具を使用して餌入り氷を製作し、動物たちに涼しい！おいしい！をプレゼントします。このワークショップを通じて、動物たちにより豊かで幸せな日々を届ける取り組みである「環境エンリッチメント」、さらには「動物福祉」について学んでいただく機会を参加者に提供するものです。

3 開催日（全6回）

令和5年8月17日（木）、21日（月）、27日（日）、
9月8日（金）、16日（土）、26日（火）

4 時間

各日10:00～13:30

【ワークショップの流れ】

10:00～11:00	飼料センターの見学とレクチャー、餌入り氷の製作
(11:00～13:00	休憩)
13:00～13:30	動物たちへの餌入り氷のプレゼントと観察

※各日で餌やりを行う動物は異なります。



イメージ写真(クロシロエリマキキツネザル)

5 開催場所

千葉市動物公園内飼料センターおよび各動物展示場前

6 参加者募集について

- (1) 定員 各日15人（先着順）
- (2) 参加費 無料

- (3) 申込方法 必要事項(氏名・年齢・参加希望日(複数不可)・電話・メールアドレス)をご記入の上、動物公園(dobutsu.ZOO@city.chiba.lg.jp)へメールでお申し込みください。

7 氷の中に入れる餌の提供について

今回のワークショップに際し、ファームサポート千葉合同会社(<https://farmsupport-chiba.jimdofree.com/>)からブルーベリーや夏野菜など、氷の中に入れる餌をご提供いただきました。

8 その他の夏場の動物たちへの暑熱対策例

飼育動物	対策
アジアゾウ	ミスト噴霧器の設置
サバンナシマウマ	日よけの設置※
ブチハイエナ	展示場内の池への氷の投入
ミーアキャット	冷感アルミ板の設置
レッサーパンダ	冷房室の設置

※日よけは、ライオンとアフリカタテガミヤマアラシの展示場にも設置予定

＜参考＞

○当園の他の環境エンリッチメントの主な取り組み

1 屠体給餌

害獣として駆除されたイノシシの肉を、骨や毛・皮などがついた状態でライオンとハイエナに与えます。採食時間を延ばすだけでなく、口で運ぶ、引っ張る、放り投げるなど、行動が多様化や心理的欲求を満たすことを目指します。

2 ライオンのミートキャッチャー

頭上のワイヤーに吊るされた肉をライオンに給餌します。野生下で狩りをしている姿がイメージできるほか、簡単には獲れない高さに肉を置くことで狩猟本能を掻き立てます。

3 チーターラン

時速110キロで走るチーターの運動能力を発揮させるため、疑似餌を追いかけて疾走することで狩猟本能を掻き立て運動不足解消にも繋げています。

4 アカハナグマのラタンボール

ラタンボールの中に餌を入れて与えます。採食時間を延ばすだけでなく、木に登る行動や長い爪を使って中の食べ物を取る行動など、アカハナグマ本来の行動を引き出します。

5 ミーアキャットの人工アリ塚

野生下ではシロアリも採食することから、アリ塚に見立てた給餌機を設置しました。ミルワームを代用し、手を入れて餌を掻きだす野生本来の採食行動を促進させています。

6 ホンドザルの冬のたき火

冬の寒さ対策として行っています。たき火で暖を取りながらサツマイモなどをほおぼります。野生では火に当たるといふ行動はありませんが、回数を重ねることにより火は暖かいということを認知させ、暖を取る行動を誘発させるのが狙いもあります。

※環境エンリッチメントの取り組みについて（千葉市動物公園ホームページ）

【URL】<https://www.city.chiba.jp/zoo/news/2023kankyoudenriccimentto.html>



○「動物福祉」、「環境エンリッチメント」とは

1 動物福祉とは

飼育環境における動物たちのQOL（Quality Of Life）を追求するもので、たとえ飼育下であっても可能な限り野生下で受ける刺激と同様の刺激を受けられる環境を再現し、野生本来の行動が発現できるよう環境構築を行っていくものです。

これらの取り組みは動物たちの生き生きとした行動を喚起し、また健全な繁殖の基礎にも繋がるものであり、動物園の持つ社会的使命である動物の正しい知識啓発を行う「教育機能」、希少野生動物の保護増殖を担う「種の保存」の実現のための基礎となるものであり、近代動物園の重要な柱であると捉えています。

2 環境エンリッチメントとは

飼育下の動物が必要としていながら足りていなかった特定の刺激や環境要因を飼育環境へ追加することによって動物の正常な行動の多様性を引き出す、動物の福祉向上のため飼育環境に対して行われる工夫のことを言います。